






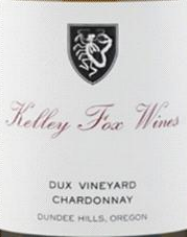
# Kelley Fox Wines

## ケリー・フォックス・ワインズ


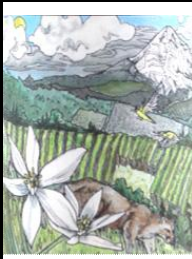











ケリー・フォックス・ワインズは2007年に設立されたワイナリーである。心理学や生物学を学んだ後に科学研究の道から転じたケリーは、彼女にとっての最重要の師だというデイヴィット・レット率いるアイリー・ヴィンヤードなどのワイナリーで研鑽を積んだ。現在はダンディー・ヒルズを中心に、マーシュ、カーター、デュラン、フリーダム・ヒルといった歴史ある区画からブドウを調達。なかでもマーシュ・ヴィンヤードは、自根の古木、周囲の環境や継続的な優良栽培、そして前オーナー夫妻との親交など、多くの点でケリーにとって特別な畑だ。収穫は区画ごとに行い、野生酵母で発酵。全房発酵の比率は年や区画ごとに調整し、新樽の使用は抑えて果実の個性を尊重。2018年以降は静かな森に囲まれたセラーを拠点とし、果実の声に「応答する」姿勢で、畑とその年の表情を素直に映す自由なピノ・ノワールを追求している。






2023	冬から春にかけて気温は低く、降雪も多く、萌芽は例年より2~3週間遅れた。しかし5月以降は一転して記録的な乾燥と高温が続き、開花は急速に追いついた。夏は非常に暑く乾燥したが病害の発生はなく、結実も揃って収量は前年より大幅に多く、9月初旬の雨の後は理想的な天候が続き、区画ごとに適切なタイミングで収穫が行えた。2023年は2015、2014に次ぐ温暖な年であったが、糖度と熟度の進みは過度にならず、豊かな実を得ることができた。ピノ・ノワールは凝縮感とバランスを備え、白ワインはアロマが豊かで酸も保たれている。2018年や2016年以来の力強さを感じる年となった。
2022	月によって気候が目まぐるしく変わる1年だった。雨の多い冬だったが2月になると極度に乾燥し、また3月になると大雨で洪水が起き、初夏まで雨が降った。夏は例年通り乾燥したが、山火事は発生しなかった。9月の気候は理想的だったが、4月の霜の影響で例年よりも収穫時期は遅れた。最終的に白ワインはこれまででもトップクラスで良質なものができ、ピノ・ノワールはよくバランスの取れた味わいとなった。
2021	冬の降水量は平均並みだったが、気温は低く春まで乾燥していた。5月中旬に気温が1℃まで下がり雷が降る暴風雨があった。6月も何回か暴風雨があり、その後異熱波で43℃を超える日が数日続き日の長さも相まって多くの作物が被害を受けたが幸運にもブドウへの被害はほぼなかった。総じてアロマが素晴らしい生き生きしたワインができた。
2020	冬から春は全体的に平均より暖かかった。7月はここ10年で一番涼しい気温で始まり、曇りや雨の日が続いた。ブドウは実が非常に小さく結実不良も多かった。収量は1エーカー当たり1t程と少なかったが、ブドウの品質は全てが調和し完璧だった。9月の記録的熱波により、沿岸部まであちこちで山火事が起こった。畑への影響を考慮し赤ワインは造らなかった。
2019	これまでより彼女の思う「オレゴンワイン」に近づいた年。6月後半から7月にかけて記録的な大雨が降り、ウドンコ病が大流行した為、間引きを余儀なくされた。それにより収量は減ったが、果実はゆっくり味わいを深められ、最終的に味わいもバランスも美しく仕上がった。
2018	冬は春のような気候だった。春後半には日差しが照り付け25℃~28℃くらいの気温の日が続いた。雨も例年より少なかった。7月も日中はとても暑かったが、夜は乾燥して気温が低く、この寒暖差が味わいの発展と良質な酸をもたらした。昨年のクリーンで繊細な味わいに対し、より凝縮感のある仕上がり。
2017	2011年以来続いた猛暑からついに解放された年。冬の降雨・積雪量は平均の150%と素晴らしい状態で、春は比較的湿度が高く涼しかった。8月前半の2週間は猛暑が続いたが、雨によって落ち着き、果実の色づきが促された。収穫はほとんどが10月に入ってから。全房発酵は50%まで落とし、エレガントで香り高い古典的なオレゴンピノができた。
2016	2016は栽培初期に異常な暑さとなった。過去2年と異なり不安定に天気が変動した。乾燥した冬を経て、春先から強い日差しとともに気温が上昇した。8月の暑さは昨年同月の記録を塗り替えた。収穫は通常より約3週間早めた。マーシュの収量は平均よりかなり少なかった。果実はここ数年で最も小さかったが、アロマと凝縮感は近年では一番だった。
2015	2014に続き異常に暑い年となった。暖かい冬に始まり夏まで暑かったが、珍しい8月の通り雨が暑さを和らげた。例年より2週間早く萌芽し、マーシュではそのまま驚きの速さで生育が進み、豊かな収量だった。モンタジでは前年とほぼ同程度の収量にとどまった。総じて果実の出来は良く、100%全房発酵にした。

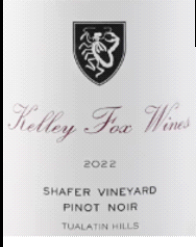
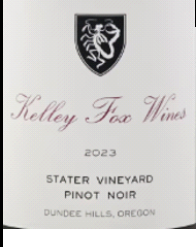

	<p align="center"><b>○Willamette Blanc</b> ウィラメット・ブラン</p>			<p>大規模な山火事の煙によりブドウが燻されたので、赤ワインを醸造しなかった年。煙の香りがつかないように、ピノ・ノワールを白ワイン醸造した。通常のケリー・フォックスの味筋ではないが、煙にまみれたピノ・ノワールを何とかワインとして世に出そうとした苦心の作品。エチケットには不死鳥の絵があしらわれている。</p>
	<p>煙</p> <p>品種：ピノ・ノワール70%、シャルドネ30% 植樹：1983年（ピノ・ノワール・白根）、1991年、2011年、2018年（シャルドネ） 位置：標高120~140m、東向き 土壌：レッド・ジョリー中心、シャルドネは一部古代海洋性土壌</p>	<p>醸造</p> <p>収穫後すぐに压榨 ピノ・ノワールとシャルドネは別々のステンレスタンクで醗酵 ピノ・ノワールはステンレスタンクで澱とともに6ヵ月間、シャルドネはブルゴーニュ樽で澱とともに6ヵ月間それぞれ熟成しブレンド</p>	備考	<p>ネルトウスとは豊穡を司る古代の女神のこと。エチケットはネルトウスをイメージしケリーの娘ヴァイオレットがデザインした。 品種構成はVTにより異なる。2022VTは、ピノ・グリ以外は全房プレスし品種ごとに別々に醗酵、ピノ・グリは数日間のマセレーション醗酵をさせ、ブレンドした。</p>
	<p>煙</p> <p>品種：アーリー・マスカット、ピノ・グリ、リースリング、ピノ・ブラン他 植樹：2006年頃 位置：標高137~153m、南向き</p>	<p>醸造</p> <p>それぞれ6~12日間のマセレーション合成樹脂容器で醗酵、マロラクティック醗酵あり ステンレスタンクで約5ヵ月間熟成</p>	備考	<p>元々ネルトウスに混ぜていたグリューナー・ヴェルトリーナーだが、味わいが良いため単一品種で醸造をした。</p>
	<p align="center"><b>○Willamette Valley Chardonnay</b> ウィラメット・ヴァレー・シャルドネ</p>			<p>フリーダム・ヒル・ヴィンヤードの樹齢が若いシャルドネで造るキュヴェ。樹齢を重ねた後には、単一畑キュヴェとしてリリースする予定。</p>
	<p>煙</p> <p>品種：シャルドネ100% 植樹：2011年 位置：標高137m、南向き 土壌：レッド・ジョリー</p>	<p>醸造</p> <p>ステンレスタンクで醗酵 澱引きしブルゴーニュ樽（228L）で熟成</p>	備考	<p>ダンディーヒルズA.V.A.に位置するダックスヴィンヤードで栽培したシャルドネを使って、2021VTから醸造。ダックス・ヴィンヤードでシャルドネを造ることはケリーの長年の夢だった。</p>

 <p>Holley Fox Wines 2018 DURANT VINEYARD CHARDONNAY LARK BLOCK DUNDEE HILLS, OREGON</p>	<p>○Durant Vineyard Chardonnay - Lark Block デュラン・ヴィンヤード・シャルドネ ラーク・ブロック</p>		備考	アンフォラ型コンクリートタンクについて、ケリーは「子宮型」Uterine-shapedと呼んでいる。卵型ではなく、上部の径が大きく、下にむかってすぼまる形をしている。
 <p>Holley Fox Wines FREEDOM HILL VINEYARD PINOT BLANC WILLAMETTE VALLEY</p>	<p>○Freedom Hill Vineyard Pinot Blanc フリーダム・ヒル・ヴィンヤード・ピノ・ブラン</p>		備考	ベルパインは海洋性の堆積土壌で、シルトや粘土を含み、水はけが良い。この土壌がピノ・ブランの栽培に適しているとケリーは考える。
 <p>Holley Fox Wines 2023 STATER VINEYARD PINOT BLANC DUNDEE HILLS, OREGON</p>	<p>○Stater Vineyard Pinot Blanc ステイター・ヴィンヤード ピノ・ブラン</p>		備考	ダンディー・ヒルズの区画のジ・アイリー・ヴィンヤードの区画とデュラン・ヴィンヤードの間に位置し、ほとんどピノ・ノワールが植えられているが、0.5エーカーほどの美しいピノ・ブランが植えられている。
 <p>Holley Fox Wines OLD VINE WHITE RIESLING MARESH VINEYARD DUNDEE HILLS, OREGON</p>	<p>○Maresh Vineyard - Old Vine White Riesling マーシュ・ヴィンヤード オールド・ヴァイン・ホワイト・リースリング</p>		備考	ケリーが80年代にオレゴンに越してきたとき、オレゴン産リースリングはとても人気が高く、ケリーもよく森の中でフクロウの鳴き声を聴きながら楽しんでたという。そのころ飲んでいたワインを再現しようと試みたワイン。
<p>畑</p> <p>品種：シャルドネ100% (内96%が ディジョンのクローン) 植樹：1991年 位置：標高250~300m、東向きの斜 面 土壌：古代海洋性土壌</p>	醸造	<p>全房圧搾し、マセレーションはしない アンフォラ型コンクリートタンクで約 2週間醗酵 ブルゴーニュ樽 (228L) で10カ月間 熟成、新樽は使用しない</p>		
<p>畑</p> <p>品種：ピノ・ブラン100% 植樹：2012年 位置：標高105~183m、南東向き 土壌：海洋性堆積土壌 (ベルパイン)</p>	醸造	<p>全房圧搾 ステンレスタンクで醗酵 ステンレスタンクで熟成</p>		
<p>畑</p> <p>品種：ピノ・ブラン 100% 植樹：1990年 (接ぎ木) 位置：標高120m、南向き 土壌：レッド・ジョリー (赤色火山性 土壌、シルト・粘土・ローム)</p>	醸造	<p>マセレーションなし ステンレスタンクで6カ月間熟成</p>		
<p>畑</p> <p>品種：リースリング100% 植樹：1970年 位置：標高137m 土壌：レッド・ジョリー</p>	醸造	<p>全房圧搾 ステンレスタンクで醗酵 ステンレスタンクで5カ月間熟成</p>		

	<b>●Ahurani</b> アフラニ			備考	ヴィツェル・ディクソンヴィル (Witzel-Dixonville)と呼ばれる土壌。 森に囲まれたモンタジの区画の畑から出来上がる、ケリーの造るワインの中でも比較的ボディのあるワイン。
	畑	品種：ピノ・ノワール100% 植樹：1999年 位置：標高150~180m、南・南東向き 土壌：レッド・ジョリー、玄武岩	醸造		
	<b>●Mirabai</b> ミラバイ			備考	レッド・ジョリーと称される、酸化鉄で赤味を帯びた火山性土壌は、シルトと粘土、ローム質が混じっている。火山性土壌でフィロキサがないので、全て自根。 2022VT：Alc.13.0%、全房比率30% 2023VT：Alc.13.5%、全房比率15% 2024VT：Alc.13.0%、全房比率0%
	畑	品種：ピノ・ノワール100% 植樹：1970~1991年 位置：標高122m、南・南東向き 土壌：レッド・ジョリー	醸造		
	<b>●Hyland Vineyard Pinot Noir - Coury Clone</b> ハイランド・ヴィンヤード・ピノ・ノワール コーリークローン			備考	濃い赤色をしているが、透明感はある色合い。涼しさを伴った、赤い果実味と、ハイランドの典型的な酸味が特徴。 レッド・ジョリーと称される、酸化鉄で赤味を帯びた火山性土壌は、シルトと粘土、ローム質が混じっている。
	畑	品種：ピノ・ノワール100% 植樹：1988年 (自根) 位置：標高183m、北・西向き 土壌：レッド・ジョリー	醸造		
	<b>●Montazi Vineyard Pinot Noir</b> モンタジ・ヴィンヤード・ピノ・ノワール			備考	ヴィツェル・ディクソンヴィル (Witzel-Dixonville)と呼ばれる土壌。 プレスした果汁は使用しない。
	畑	品種：ピノ・ノワール100% 植樹：1999年 位置：標高150~180m、南東向き 土壌：レッド・ジョリー、玄武岩	醸造		
	<b>●Montazi Vineyard - Pinot Noir "Tir"</b> モンタジ・ヴィンヤード・ピノ・ノワール "ティル"			備考	"Tir"はペルシャ語で星を意味し、現代アラビア語では「弓矢」の意。 レッド・ジョリーと称される、酸化鉄で赤味を帯びた火山性土壌は、シルトと粘土、ローム質が混じっている。火山性土壌でフィロキサがないので、全て自根。 プレスした果汁は使用しない。
	畑	品種：ピノ・ノワール100% 植樹：2003年 (複数のクローンの混植) 位置：標高150~180m、南東向き 土壌：レッド・ジョリー、玄武岩	醸造		
	<b>●Maresh Vineyard Pinot Noir</b> マーシュ・ヴィンヤード・ピノ・ノワール			備考	レッド・ジョリーと称される、酸化鉄で赤味を帯びた火山性土壌は、シルトと粘土、ローム質が混じっている。火山性土壌でフィロキサがないので、全て自根。 プレスした果汁は使用しない。
	畑	品種：ピノ・ノワール100% 植樹：1970年 位置：標高122m、南・南東向き 土壌：レッド・ジョリー	醸造		

 <p>Kelley Fox Wines</p> <p>MARESH VINEYARD PINOT NOIR LIMINAL DUNDEE HILLS, OREGON</p>	<p>● Maresh Vineyard Pinot Noir - Liminal マーシュ・ヴィンヤード・ピノ・ノワール リミナル</p>		<p>備考</p> <p>マーシュ・ヴィンヤードの中でもさらに区画を限定しているLiminal。この区画のエネルギーをよりの確に表現するために「リミナル」という名前を付けた。この区画は黒クルミの木立と隣り合っている。 レッド・ジョリーと称される、酸化鉄で赤味を帯びた火山性土壌は、シルトと粘土、ローム質が混じっている。 2021VT : Alc.13.0%、全房比率30% 2022VT : Alc.13.0%、全房比率0% 2023VT : Alc.13.0%、全房比率0%</p>
 <p>Kelley Fox Wines</p> <p>2021</p> <p>MARESH VINEYARD PINOT NOIR STAR-OF-BETHLEHEM FLOWER BLOCK DUNDEE HILLS, OREGON</p>	<p>● Maresh Vineyard Pinot Noir - Star of Bethlehem Flower Block マーシュ・ヴィンヤード・ピノ・ノワール スター・オブ・ベツレヘム・フラワー・ブロック</p>		<p>備考</p> <p>スター・オブ・ベツレヘム・フラワーは、南欧や南アフリカにみられる草花の名前。細長く白い花びらが、星のように見えることに由来。 レッド・ジョリーと称される、酸化鉄で赤味を帯びた火山性土壌は、シルトと粘土、ローム質が混じっている。 2021VT : Alc.13.0%、全房比率30%</p>
 <p>Kelley Fox Wines</p> <p>2018</p> <p>MARESH VINEYARD PINOT NOIR RED BARN BLOCKS DUNDEE HILLS, OREGON</p>	<p>● Maresh Vineyard Pinot Noir - Red Barn Blocks マーシュ・ヴィンヤード・ピノ・ノワール レッド・バーン・ブロックス</p>		<p>備考</p> <p>レッド・バーンは赤い納屋の意味。スコット・ポール・ワイナリーでワインメーカーとして働いていた時から10年以上、この区画とかかわってきたが、2018VTが最後の醸造となる。 レッド・ジョリーと称される、酸化鉄で赤味を帯びた火山性土壌は、シルトと粘土、ローム質が混じっている。</p>
 <p>Kelley Fox Wines</p> <p>2018</p> <p>MARESH VINEYARD PINOT NOIR ROYAL ANN BLOCK DUNDEE HILLS, OREGON</p>	<p>● Maresh Vineyard Pinot Noir - Royal Ann Block マーシュ・ヴィンヤード・ピノ・ノワール ロイヤル・アン・ブロック</p>		<p>備考</p> <p>ロイヤル・アンは、ブドウ畑にある樹齢100年のサクランボの木の品種名。 レッド・ジョリーと称される、酸化鉄で赤味を帯びた火山性土壌は、シルトと粘土、ローム質が混じっている。 2021VT : Alc.13.0%、全房比率25%</p>
 <p>Kelley Fox Wines</p> <p>MARESH VINEYARD PINOT NOIR GOLDEN-CROWNED SPARROW BLOCKS DUNDEE HILLS, OREGON</p>	<p>● Maresh Vineyard Pinot Noir - Golden Crowned Sparrow Blocks マーシュ・ヴィンヤード・ピノ・ノワール ゴールデン・クラウンド・スバロウ・ブロックス</p>		<p>備考</p> <p>区画名はこの地に生息する鳥の名前からとった。ケリーは数年にわたり数多くの鳥の鳴き声の録音データを聞き、この鳥の正体を突き止めた。 2022VT : Alc.12.5%、全房比率30% 2023VT : Alc.13.5%、全房比率0%</p>

 Kelley Fox Wines 2018 WEBER VINEYARD PINOT NOIR DUNDEE HILLS, OREGON	<b>●Weber Vineyard Pinot Noir</b> ウェーバー・ヴィンヤード・ピノ・ノワール			ウェーバー家が1978年に、初めて植樹したブドウ畑。マーシュー家とも仲の良い、ウェーバーが管理する畑で、ケリーにとっても、最も信頼のできる栽培家の一人。 レッド・ジョリーと称される、酸化鉄で赤味を帯びた火山性土壌は、シルトと粘土、ローム質が混じっている。 2021VT : Alc.13.0%、全房比率30% 2022VT : Alc.13.5%、全房比率30% 2023VT : Alc.13.5%、全房比率30%
	畑	品種：ピノ・ノワール100% 植樹：1983、1987年（自根のポマール・クローン） 位置：標高152m、東・南東向き 土壌：レッド・ジョリー	醸造 合成樹脂容器に50%全房で約16日間マセレーション ブルゴーニュ樽（228L）で11か月間熟成 新樽は使用しない	
 Kelley Fox Wines CANARY HILL VINEYARD PINOT NOIR EDLAAMITY HILLS	<b>●Canary Hill Vineyard Pinot Noir</b> キャンナリー・ヒル・ヴィンヤード・ピノ・ノワール			ヴィンヤード名は周辺を飛び回っている黄色い鳥にちなんでつけられた。（正確にはその鳥はカナリアではない。） 2021VT : Alc.13.0%、全房比率0% 2022VT : Alc.13.0%、全房比率0% 2023VT : Alc.13.0%、全房比率0% 2024VT : Alc.13.0%、全房比率0%
	畑	品種：ピノ・ノワール100% 植樹：1995年（自根のポマール・クローン） 位置：標高137~168m、東向き 土壌：レッド・ジョリー、ネキア（より石が多い火山性土壌）	醸造 合成樹脂容器で約14~18日間マセレーション ブルゴーニュ樽（228L）で10か月間熟成 新樽は使用しない	
 Kelley Fox Wines CARTER VINEYARD PINOT NOIR EDLAAMITY HILLS	<b>●Carter Vineyard Pinot Noir</b> カーター・ヴィンヤード・ピノ・ノワール			1974年から有機栽培が行われているカーター・ヴィンヤード。ケリーはここで2019VTからワインを造り始めた。 この畑から生まれるワインは強い個性と気品を持つ。 2021VT : Alc.13.0%、全房比率30% 2022VT : Alc.13.0%、全房比率50% 2023VT : Alc.12.5%、全房比率0% 2024VT : Alc.13.0%、全房比率0%
	畑	品種：ピノ・ノワール100% 植樹：1983年（自根） 位置：標高100m、南向き 土壌：レッド・ジョリー、ネキア（より石が多い火山性土壌）	醸造 合成樹脂容器に全房30%で15~19日間マセレーション ブルゴーニュ樽（228L）で10か月間熟成 新樽は使用しない	
 Kelley Fox Wines 2022 DURANT VINEYARD PINOT NOIR DUNDEE HILLS	<b>●Durant Vineyard Pinot Noir</b> デュラン・ヴィンヤード ピノ・ノワール			1973年および1984年に植えられた自根のポマール・クローンからなる歴史あるダンディー・ヒルズの区画「Bishop Block」由来。完熟したオレゴンアイチゴや繊細なスパイスの香り、ミネラル感を伴う典型的なダンディー・ヒルズの個性を持つピノ・ノワール。 2022VT : Alc.13.5%、全房比率0% 2023VT : Alc.13.0%、全房比率10% 2024VT : Alc.13.5%、全房比率0%
	畑	品種：ピノ・ノワール（ポマール・クローン）100% 植樹：1973年、1984年 位置：標高150m、南向き 土壌：レッド・ジョリー（赤色火山性土壌、シルト・粘土・ローム）	醸造 開放式発酵槽で14~18日間マセレーション ブルゴーニュ樽（228L）で9か月間熟成	
 Kelley Fox Wines 2022 FREEDOM HILL VINEYARD PINOT NOIR WILLAMETTE VALLEY	<b>●Freedom Hill Vineyard Pinot Noir</b> フリーダム・ヒル・ヴィンヤード ピノ・ノワール			ダッシー家所有のフリーダム・ヒル・ヴィンヤード。透明感あるルビー色の中に深い力強さを秘めたピノ・ノワールが特徴的。熟した赤・黒系果実、スミレ、微細なスパイス、海のミネラル感など複雑な香りを持ち、赤果実、ダークチョコ、紅茶、シナモンのフレーバー野性味と気品を兼ね備えた、熟成向きの1本。 2022VT : Alc.12.5%、全房比率100% 2023VT : Alc.13.5%、全房比率0%
	畑	品種：ピノ・ノワール 100% 植樹：2000年 位置：標高150m、南向き 土壌：ベルバイン（砂岩上のシルト質粘土ローム）	醸造 開放式発酵槽で14~18日間マセレーション ブルゴーニュ樽（228L）で9か月間熟成	

	<p align="center"><b>●Shafer Vineyard Pinot Noir</b> シェイファー・ヴィンヤード ピノ・ノワール</p>		<p>トゥアラティン・ヒルズに1973年に自根で植えられたブドウから造られる。口当たりは絹のように滑らかで、静かに流れる赤果実の風味が長い余韻へと続く。軽やかでありながらも奥行きを感じさせる、霧のように優く詩的なピノ・ノワール。 2022VT : Alc.13.0%、全房比率30%</p>
	<p align="center"><b>●Stater Vineyard Pinot Noir</b> ステイター・ヴィンヤード ピノ・ノワール</p>		<p>ダンディー・ヒルズの区画のジ・アイリー・ヴィンヤードの区画とデュラン・ヴィンヤードの間に位置し、高解像度で緻密、構造的な骨格を持つ。果実の奥には微細な旨味が感じられ、酸と張りのあるストラクチャーが余韻まで美しく続く。洗練されたディテールを持つ集中力の高いピノ・ノワール。 2023VT : Alc.13.0%、全房比率10% 2024VT : Alc.13.0%、全房比率0%</p>
	<p align="center"><b>●Blueberry Wine</b> ブルーベリー・ワイン</p>		<p>ケリーがパートナーのジム・アンダーソン (Patricia Green Cellars) と共同で造ったブルーベリーのワイン。地元の農園の土着のブルーベリーを手作業で収穫し、赤ワインと同じように醸造した。酵母を最小限添加。醸酵が始まったタイミングと瓶詰め前に、少量のきび糖を添加している。</p>
畑	<p>品種：ピノ・ノワール 100% 植樹：1973年 位置：標高180m、南向き 土壌：石英と粘土を含むシルト質のレス。</p>	醸造	備考
畑	<p>品種：ピノ・ノワール 100% 植樹：1990年 (接ぎ木) 位置：標高120m、南～南東向き 土壌：レッド・ジョリー (赤色火山性土壌、シルト・粘土・ローム)</p>	醸造	備考
畑	<p>品種：ブルーベリー100% 植樹：1987年</p>	醸造	備考
<p>開放式発酵槽で14～18日間マセレーション ブルゴーニュ樽 (228L) で9か月間熟成</p>	<p>開放式発酵槽で14～18日間マセレーション ブルゴーニュ樽 (228L) で9か月間熟成</p>	<p>1日1回のピジャージュをしながら合成樹脂容器で醸酵 ブルゴーニュ樽 (228L) で8か月間熟成 澱引きし瓶詰め直前にフィルターをかける</p>	